二〇二〇年度大学入試センター試験 解説〈現代文〉

第1問　評論　河野哲也（こうのてつや）『境界の現象学』

［総　括］

第1問の評論は、「レジリエンス」の現代的意義を論じた文章。「レジリエンス」という言葉を聞き慣れない生徒はとまどったかもしれないが、筆者が具体例を挙げながら詳しく説明しており、論旨に従って読み進めれば、十分理解可能な内容だったはずである。字数は、一昨年（約四六〇〇字）から減少した昨年（約四二〇〇字）よりも更に減少し、約三二〇〇字だった。

設問形式は概ね例年通り。**問5**は「生徒の会話の空欄を埋める」という形式だったものの、実質的には内容合致問題であり、大きな変化とは言えない。

［解　説］

問1　漢字問題　基本～標準

傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の ① ～ ⑤ のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

いずれも漢字自体は難しくないが、選択肢の中には、「小康（不穏な事態がしばらくの間おさまっていること）」「更迭（ある地位・役職にある人を入れかえること）」「嫌疑（犯罪を犯したのではないかという疑い）」など、意味がやや難しい熟語が含まれていた。漢字は、意味まで覚えていないと想起することが難しい。(エ)「偏って」も、「偏差値（平均値からのずれ、かたよりを示す値）」の意味さえ知っていれば、容易に④を選べたはずである。熟語の意味まで含めた漢字学習を意識してほしい。

(ア) 促進　①結束　②目測　③捕捉　④自足　◎⑤催促
(イ) 健康　◎①小康　②候補　③更迭　④甲乙　⑤技巧
(ウ) 権限　◎①棄権　②堅固　③嫌疑　④検証　⑤勢力圏
(エ) 偏って　①編集　②遍歴　③返却　◎④偏差値　⑤変調
(オ) 頑健　①対岸　②主眼　③岩盤　④祈願　◎⑤頑強

正解　(ア) 1 ⑤　(イ) 2 ①　(ウ) 3 ①　(エ) 4 ④　(オ) 5 ⑤

問2　内容説明問題　標準

傍線部A「そこにある微妙な意味の違い」とあるが、どのような違いか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部前後の文脈を確認しよう。

4 （レジリエンスとは）**環境の変化に対して動的に応じていく適応能力**のことである。

5 レジリエンスは、回復力（復元力）、あるいは、サステナビリティと類似の意味合いをもつが、A そこにある微妙な意味の違いに注目しなければならない。たとえば、回復とはあるベースラインや基準に戻ることを意味するが、レジリエンスでは、……固定的な原型が想定されていない。**絶えず変化する環境に合わせて流動的に自らの姿を変更しつつ、それでも目的を達成する**のがレジリエンスである。

6 また、サステナビリティに関しても、……唯一の均衡点が生態系のなかにあるかのように期待されている。……レジリエンスで目指されているのは、**健康なダイナミズム**である。

右のように、回復力やサステナビリティは、ある基準や均衡点に戻ることを期待するが、レジリエンスは、**環境の変化に合わせて動的に応じていく能力**のことであり、固定的な原型が想定されていない（環境が変化すれば、以前とは異なる自分が生まれることになる）。以上のような対比構造を適切に説明している②が正解。

①は、「存在しない」が誤り。回復力やサステナビリティには基準となるベースラインが存在する。
③は、「自己を更新し続ける」のは、レジリエンスの説明である。
④は、「レジリエンスは均衡を調整」が誤り。
⑤は、「自己を動的な状態に置いておくこと自体を目的とする」が誤り。自己を動的な状態に置きつつ、目的を達成するのがレジリエンスである。

正解　6　②

問3　内容説明問題　標準

傍線部B「ここでレジリエンスにとって重要な意味をもつのが、『脆弱性（vulnerability）』である。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部前後の文脈を確認しよう。

9　クライエントの支援は、本人の持つレジリエンスが活かせる環境を構築することに焦点が置かれる。たとえば、発達障害のある子どもに対して、……。

10　B ここでレジリエンスにとって重要な意味をもつのが、「**脆弱性（vulnerability）**」である。……脆弱性とは、**変化や刺激に対する敏感さ**を意味しており、**このようなセンサーをもったシステムは、環境の不規則な変化や攪乱、悪化にいち早く気づける**からである。

傍線部「ここ」は段落冒頭の指示語なので、その前の段落の内容をおさえる。傍線部の直前は「発達障害のある子どもに対して…」という具体例なので、さらにその前を読むと、「本人の持つレジリエンスが活かせる環境を構築する」とある。ここが指示対象だろう。そして、本人の持つレジリエンスが活かせる環境を構築するとき、「脆弱性」が重要な意味をもつのは、**脆弱性が環境の変化にいち早く気づくためのセンサーとして働く**からである。例えば、障害者や高齢者、妊婦など、ある種の弱者にとって避難しやすい建築物を作っておけば、災害に対して対応力の高い施設となるのである。以上の内容を適切に説明した③が正解。

①は、「脆弱性は、被支援者が支援者にどれだけ依存しているかを測る尺度となる」が誤り。
②は、「脆弱性は、変化の起こりにくい環境に変化を起こす刺激として働く」が誤り。
④は、「均衡状態へと戻る」が誤り。
⑤は、「人と環境の復元力を保てるように」・「人の回復力が不十分な状態にあることを示す尺度となる」が誤り。

正解　7　③

問4　内容説明問題　標準

傍線部C「それをミニマルな福祉の基準として提案できる」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部前後の文脈を確認しよう。

12　レジリエンスは、複雑なシステムが、変化する環境のなかで自己を維持するために、環境との相互作用を連続的に変化させながら、環境に柔軟に適応していく過程のことである。

13　レジリエンスがこうした意味での回復力を意味するのであれば、C それをミニマルな福祉の基準として提案できる。すなわち、……**そうした柔軟な適応力を持てるようにすることが、福祉の目的**である。

14　レジリエンスとは、**自己のニーズを充足し、生活の基本的条件を維持するために、個人が持たねばならない最低限の回復力**である。**ケアする者がなすべきは、さまざまに変化する環境に対応しながら自分のニーズを満たせる力を獲得してもらうように、本人を支援する**ことである。

傍線部「それ」＝「こうした意味での回復力」＝「環境に柔軟に適応していく過程」である。それを「ミニマルな福祉の基準として提案」するとは、どういうことか。傍線部直後に「すなわち」とあるので、その後で説明されているはずである。13・14に即して考えれば、**レジリエンスは自己のニーズを充足するための最低限の回復力であり、支援する者は被支援者が環境に対する柔軟な適応力を持てるように働きかける**ということだろう。以上の内容を適切に説明している②が正解。

①は、「主体的に対応できるシステム」が「最小の基準」なのではない。
③は、「環境の変化の影響を受けずに」が誤り。
④は、支援者に求められるのは、「ニーズに応え」ることではなく、「被支援者が自分のニーズを満たせる力を獲得できるように支援する」ことである。
⑤は、「経済力」に限定される話ではない。

正解　8　②

問5　空欄補充問題　標準

次に示すのは、本文を読んだ後に、三人の生徒が話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。

昨年同様、**問5**で生徒の会話文が提示された。二つの点に注意してほしい。

(一)　空欄の直前直後との整合性を考える。

(二)　設問文に「本文の趣旨を踏まえ」とあるので、「内容合致問題」として考える。

まずは、空欄前後の文脈を確認しよう。

生徒C―5段落には「**発展成長する動的過程**」ともあるよ。こういう表現は何だか私たちのような高校生に向けられているみたいだね。
生徒A―たしかにね。［　　］
生徒B―なるほど。「**動的**」ってそういうことなのか。

前後のつながりを考えれば、空欄には「**動的過程**」の説明が入るとわかる。「本文の趣旨を踏まえ」とあるので、本文から「**動的過程**」に関する説明を探せばよい。

4　環境の変化に対して**動的に**応じていく適応能力
5　絶えず変化する環境に合わせて**流動的**に自らの姿を変更しつつ、それでも目的を達成するのがレジリエンスである。
12　自己と環境の**動的な**調整に関わることである。……複雑なシステムが、変化する環境のなかで自己を維持するために、環境との相互作用を連続的に変化させながら、環境に柔軟に適応していく過程のことである。

レジリエンスの説明の中で何度も繰り返されているように、**動的過程とは、変化する環境に柔軟に適応していく過程**のことである。選択肢の②「新チームで話し合って現状に合うように工夫」は、「環境に柔軟に適応」している例と言えるので、②が正解。

①は、「環境に柔軟に適応」の例とは言えない。
③は、「自由な発想」や「ひとりひとりの個性」が大切という話ではない。
④は、「将来のニーズの予想」という話ではない。
⑤は、「オンとオフの切り替え」という話ではない。

正解　9　②

問6　文章の表現と構成を問う問題　(i)　**標準**　(ii)　**基本**

(i)　この文章の表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

①は、「としよう」は仮定を表す表現。また、2の最初の文と第2文を読むと、「コップ一杯の水を運んでいる」という具体的な状況が想像されるので、適切。
②は、「筆者が独自に規定した意味」が誤り。「ここで言う」直後の「自己の維持」は、生態学や自然保護運動の文脈で実際に用いられている表現であり、筆者が独自に使用している言葉ではない。
③は、「直前の表現は本来好ましくない」が誤り。筆者は、レジリエンスと回復力・サステナビリティは異なると説明しているが、「サステナブルな自然」という表現が好ましくないと思っているわけではない。また、一般的に、「といったときには」の直前に「本来好ましくない」表現がくると

いうこともない。

④は、「筆者から患者に対する敬意を示す」が誤り。

正解　10　①

(ii)　この文章の構成に関する説明として**適当でないもの**を、次の ① ～ ④ のうちから一つ選べ。

①は、2は、**ウォーカーの比喩**を引用している段落なので、「他者の言葉で読者にイメージをつかませ」は正しい。また、3には、「この言葉は、『攪乱を吸収し、基本的な機能と構造を保持し続けるシステムの能力』を意味する」とあり、これは筆者によるレジリエンスの定義づけなので、「筆者の言葉で意味を明確にしてこの概念を導入」という指摘も正しい。

②は、5では「回復力（復元力）」、6では「サステナビリティ」という、「レジリエンス」と類似する概念について詳しく説明している。

③は、4では「六〇年代」、7では「八〇年代」、11では「近年」とあり、レジリエンスという概念が拡大していく様子が時系列順に説明されている。

④は、「筆者の立場から反論」が誤り。13は「レジリエンスをミニマルな福祉の基準として提案」する話であり、誰にも「反論」していない。

正解　11　④

第2問　小説　原民喜（はらたみき）「翳（かげ）」

［総　括］

二〇一六・二〇一七・二〇一九年と同様、古い時代の小説からの出題。文章の行数、選択肢の行数共に昨年より減少し、分量は軽くなったと言える。落ち着いて読めばそれほど難しい内容ではないが、（注）が20個あることが示すように、高校生にとって馴染みのない言葉が多く、また、手紙が何度も登場し、時と場所が頻繁に変わるので、読みにくさを感じた受験生が多かったのではないか。人間関係が複雑な場合や、場面（時と場所）が頻繁に変わる文章では、多少時間をかけてでも、書き出して整理してほしい。

設問の形式は概ね例年どおり。**問1**は語句問題、**問2**～**4**は傍線部の心情問題、**問5**は「手紙」が私に与えた影響を問う問題、**問6**は文章表現に関する問題であった。**問5**は三行選択肢、かつ、文章全体を確認しなければならないので、手間がかかる問題ではあるが、間違い選択肢のキズは明確であり、内容的にはさほど難しくない。

［解　説］

問1　語句問題　(ア)　**基本**　(イ)　**基本**　(ウ)　**標準**

傍線部(ア)～(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

「本文中における意味」を問う問題ではあるが、「**辞書の意味との合致**」が大前提である（辞書の意味に合致する選択肢が複数ある場合、その中から文脈に合うものを選ぶということはあり得るが、いくら文脈上適切でも、「辞書の意味」から外れるものは正解にならない）。

(ア)の「興じる」は、「面白がって、楽しむ」の意味。ここでは、「興じ合っている」なので、①「互いに面白がっている」が正解。

(イ)の「重宝」は、「便利で役立つこと／貴重な宝物」の意味。今回は、「あの気性では誰からも(イ)重宝がられるだろう」という文脈なので、「便利で役立つ（者として使われる）」という意味で、①「頼みやすく思われ使われる」が正解。

(ウ)の「晴れがましい」は、「世間に対して誇らしく思うさま」の意味で、④「誇らしく堂々と」が正解。

正解　(ア)　12　①　(イ)　13　①　(ウ)　14　④

問2　心情説明問題　標準

傍線部A「そうした、暗い、望みのない明け暮れにも、私は凝と蹲ったまま、妻と一緒にすごした月日を回想することが多かった。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

妻を亡くした私は、少数の知人に死亡通知を送ったが、妻の死を悲しんでくれるだろう川瀬成吉から返事がないことが気がかりであった。1行目「満州にいる魚芳」というのが、誰のことなのかわかりづらいが、10行目に、「差出人は……川瀬丈吉となっている。一目見て、魚芳の父親らしいことが分った……。私が満州にいるとばかり思っていた川瀬成吉は……この世を去っていたのである」とあることから、「**魚芳**」＝「**川瀬成吉**」だと考えられる。18行目に「魚芳の小僧」とあるが、これは、「『魚芳』という魚屋で働く小僧（＝成吉）」ということだろう。人間関係を正しく把握しておかないと、その後の読解に支障をきたすので、本文冒頭では、多少時間をかけてでも、丁寧に理解しておきたい。

輸送船の船長をしていた妻の義兄が台湾沖で沈んだということをきいたのもその頃である。サイレンはもう頻々と鳴り唸っていた。A そうした、暗い、望みのない明け暮れにも、私は凝と蹲ったまま、妻と一緒にすごした月日を回想することが多かった。

傍線部に指示語がある場合、必ず指示内容をおさえること。傍線部の「そうした…明け暮れ」とは、〈妻の義兄が（おそらく戦闘で）亡くなったり、（空襲の）サイレンが常に鳴り響いたりしている明け暮れ〉ということである。そうした日常においては、戦争の経過や自身の身の安全のことに意識が向かいそうなものだが、私は「妻と一緒にすごした月日を回想することが多かった」のである。妻への深い想いが窺われる箇所である。以下、各選択肢を検討していく。

①は、「恐怖にかられた『私』」に根拠がない。

②は、「妻との生活も思い出せなくなるのではないか」が誤り。妻との生活を回想している。

③は、「生活への意欲を取り戻そう」が誤り。傍線部には「回想」とあるだけであり、「意欲を取り戻す」というところまでは読みとれない。

④は、「戦局の悪化」は、「義兄の死」や「サイレンが頻々と鳴る」ことに対応している。「妻への思いにとらわれ続け」は、「妻と一緒にすごした月日を回想することが多かった」と対応している。これが正解。

⑤は、「かつての交友関係にこだわり続けていた」が傍線部の内容から大きくズレる。

正解　15　④

問3　心情説明問題　標準

傍線部B「何か笑いきれないものが、目に見えないところに残されているようでもあった」とあるが、「私」がこのとき推測した妻の心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

本文13行目から、魚芳との出会いや交流が語られる。魚芳は「いかにも愉しげにニコニコして」（22行目）おり、「彼がやって来ると、この露次は急に賑やかに」（28行目）なるような青年であった。穏やかでのんびりした日々が続いていたのだが、日華事変の頃から状況が変わり始める。米屋の小僧と魚芳は青年訓練所に通うようになったのだ。

二人とも来年入営する筈であったので、兵隊の姿勢を身につけようとして陽気に騒ぎ合っているのだ。その恰好がおかしいので私の妻は笑いこけていた。だが、B何か笑いきれないものが、目に見えないところに残されているようでもあった。

私の妻は、二人の恰好のおかしさに笑っているのだが、入営すれば戦死することも十分に考えられる。「になえつつ」の練習は戦地へ向かう準備であり、二人のおかしな恰好の先に過酷な未来が予感されることから、「笑いきれない」のであろう。

①は、「そうした態度で軍務につくならば」が誤り。軍務につく態度を危惧しているのではない。
②は、「になえつつ」の練習は戦地へ向かう準備なのだから、「以前の平穏な日々が終わりつつあることを実感」という指摘は適切。
③は、「商売人として一人前になれなかった境遇にあわれみを覚えている」が誤り。
④は、「『になえつつ』の姿勢すらうまくできていない」ことに、不安を感じているのではない。
⑤は、「やや度を越していると感じている」が誤り。

正解　16　②

問4　心情説明問題　標準

傍線部C「彼はかしこまったまま、台所のところの閾から一歩も内へ這入ろうとしないのであった」とあるが、魚芳は「私達」に対してどのような態度で接しようとしているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

入営した魚芳は、満州、やがて北支から便りを寄越すようになった。私の妻は発病し療養生活を送ることになったものの、魚芳とのやりとりは続いていた。そして、除隊となった魚芳が私の家を訪れる。

ある日、台所の裏口へ軍服姿の川瀬成吉がふらりと現れたのだった。彼はきちんと立ったまま、ニコニコしていた。久振りではあるし、私も頻りに上ってゆっくりして行けとすすめたのだが、C彼はかしこまったまま、台所の閾から一歩も内へ這入ろうとしないのであった。

「台所」は、傍線部以前に幾度か描写されているが、「**台所の前にもやはり三尺幅の空地があったが、そこへ毎日、八百屋、魚芳をはじめ、いろんな御用聞がやって来る**」（35行目）とあるように、台所は魚芳が御用聞き（＝何か注文がないかを聞くこと）のためにいつも顔を出していた場所なのである。魚芳が「台所のところの閾から一歩も内へ這入ろうとしない」というのは、軍服姿となっても、**かつての御用聞きとしての態度を変えていない**ということである。彼の生真面目な性格が窺われる箇所である。

①は、「兵長にふさわしくない行動だと気づき」が誤り。
②は、「かつての勤め先に向かう途中に立ち寄ったので」が誤り。急いでいたから家にあがらなかったわけではない。
③は、「すぐに訪れなかったことに対する後ろめたさを隠そう」が誤り。根拠がないし、台所で留まることの理由にもならない。
④は、「予想以上に病状が悪化している『妻』の姿を目の当たりにして驚き」が誤り。
⑤は、「姿勢を正して笑顔で対面」は、傍線部の前の「きちんと立ったまま、ニコニコしていた」と対応。「かつて御用聞きと得意先であった間柄を今でもわきまえよう」が「台所のところの閾から一歩も内へ這入ろうとしない」でいることの説明である。これが正解。

正解　17　⑤

問5　心情説明問題（本文全体）　**標準**

本文中には「私」や「妻」あての手紙がいくつか登場する。それぞれの手紙を読むことをきっかけとして、「私」の感情はどのように動いていったか。その説明として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。

①は、「紋切型の文面からごく少数の知己とでさえ妻の死の悲しみを共有しえないことを知った」が誤り。2行目に「紋切型の悔み状であっても、それにはそれでまた喪にいるものの心を鎮めてくれるものがあった」とあり、私は「紋切型の文面」を必ずしも否定的に捉えていない。

②は、84行目～92行目の内容と対応しており、誤りも見つからないので、解答候補。一応他の選択肢も検討する。

③は、「すぐに赴任先が変わったので、周囲に溶け込めず立場が悪くなったのではないか」が誤り。59行目「きっと魚芳はみんなに可愛がられているに違いない」とあるので、「周囲に溶け込めず」という心配はしていない。

④は、「時局を顧みない楽天的な傾向が魚芳たちの世代に浸透しているような感覚」が誤り。若者世代に対する感覚は記述されていない。

⑤は、魚芳は「（内地に）一度帰ってみて、すっかり失望してしまった」のであり、「役所に勤めた途端に内地への失望感を高めた」わけではない。また、「不満を覚えた」も誤り。

正解　18　②

問6　表現に関する説明問題　**標準**

この文章の表現に関する説明として**適当でないもの**を、次の ① ～ ⑥ のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。

①は、「『魚芳』は川瀬成吉を指し……」は、**問2**の解説で示したとおり。

②は、文章の冒頭は妻の死後の話、13行目以降は夫妻と魚芳の交流の話、84行目以降は再び妻の死後の話となっており、「いくつかの時点を行き来しつつ」という指摘は正しい。

③は、擬態語は使われているが、「ユーモラスに描いている」とは言えない。これが一つ目の正解。

④は、犬との関わりや鵜のエピソードを通して、魚芳の誰からも慕われる明るい性格が窺われる。

⑤は、「明るすぎる」という言葉遣いから、「思索に適さない様子」が窺われる。

⑥は、「妻の状況」の説明が、「『私』の生活が次第に厳しくなっていったこと」を表しているとは言えない。

正解　19・20　③・⑥（順不同）